



びわこリハの施設 ベッド

たくさん導入されて、費用も今よりも手が届きやすくなると現場としてはうれしい

効果があるんだということを証明するために、実証実験的な取り組みも進めてほしいです。

少しでも多くの人に使えるように、幅広く色んなことに使えるようになってほしいですね。

車椅子ハンドボールチーム B-Loup のご紹介



チームロゴ

身体的条件や性別、年齢にかかわらず、誰もが楽しめる「ユニバーサルスポーツ」。そのひとつとして注目されているのが「車椅子ハンドボール」です。健常者も車椅子に乗って一緒にプレーします。大西先生は学校の車椅子ハンドボールチームの監督と GK を兼ねていらっしゃいます。「地域の障害を持った人と学生を組ませて試合をすることで、障害の壁を越えたコミュニケーションをとりたい。」と今後の抱負を語っておられました。

取材を終えて

滋賀が好きで学生たちが多く、先生方も「地元滋賀のリハビリテーションの質向上に貢献してほしい」と願っておられました。素敵ですね。iADVISOR での授業の感想も、参考になる意見をきくことができました。これからも iADVISOR をよろしくお願いたします。



Hint & Tips

VR 酔いは車酔い・船酔いと同じなんです

VR 酔いは、車や船などの乗り物酔いが起こると同じ原理です。

「VR の画面では前進しているのに実際は椅子に座ったままである」という状態が脳と体の認識のズレとなり、気分が悪くなったりすることがあります。



iADVISOR では



酔いを抑えるため歩行を伴うトレーニングでは移動速度を高齢者の歩行速度に近い速さに設定にしています。「歩く」の腕振りは、実際に歩いている動作にちかいため、映像と体の感覚のズレを軽減しています。

また、映像がなめらかでないと VR 酔いがおきやすいので、なめらかになるようにしています。トレーニング中に頭を大きく動かすと酔いやすいので、何かを見るときはゆっくりと。気分が悪くなったら無理をせず休憩を取ってください。短い時間から少しずつ慣らしていきましょう。

トレーニングをはじめる前に



まず、レンズの位置と目の位置が合っていることが重要です。ヘッドセットの IPD (瞳孔間距離) を調整して最適な位置になっていることを確認してください。メガネをかけている方は、メガネがヘッドセット内にきちんと収まるようにしてください。ダイヤルやベルトを調整して、動くはずれたりしないようにし、頭にヘッドセットがフィットしていることを確認してください。

はじめはゆったりとした「見る」のトレーニングで VR に慣れてもらうのがおすすめです。万が一、体調が悪くなった場合はトレーニングを中断し、車酔いや船酔いの対処と同じように①深呼吸をする②遠くを眺める③冷たい水を飲みクールダウンするなどして体を休めてください。

学会発表のお知らせ

トレーニングに関する情報やアドバイス等のご協力いただいている今田泰裕さんが、学会で「半側空間無視症例に対する没入型バーチャルリアリティを用いた評価」を演題としたポスター発表をされます。ご都合が合うようであればお出かけください。

「STROKE 2023 脳卒中の和」

- 第 48 回日本脳卒中学会学術集会
- 第 52 回日本脳卒中の外科学会学術集会
- 第 39 回 SAH/スバズム・シンポジウム

・ポスター展示：3月16日(木)～18日(土)

・場所：パシフィコ横浜 1F 展示ホール B

3月18日(土) 13:30～14:10 ポスターの場所にて今田先生による説明と質疑があります。(約5分)



VR と IADL 勉強会 [VEGA] を開催しました

昨年10月に神戸大学准教授の三浦先生の主催で、VR と IADL の勉強会をオンラインにて開催しました。講師の先生のお話と質疑応答があり、有意義な勉強会となりました。



三浦先生

